

富士山ワーク



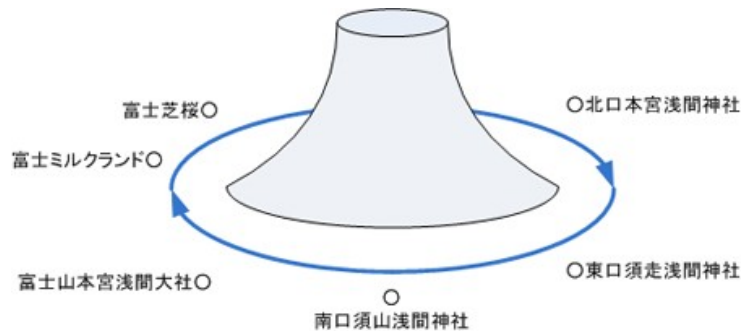
富士山のエネルギーを頂いて
エネルギーアップするための方法
を解説します

目次

1. 基本的な知識	3
2. 浅間神社	3
3. 浅間神社の神様	3
4. それぞれの浅間神社での参拝	6
5. 御中道	5
6. スタート地点	6
7. カーナビについて	6
8. スポット紹介	7
1) 金鳥居	7
2) 北口本宮富士浅間神社 第一大鳥居	8
3) 北口本宮富士浅間神社	9
4) 大塚丘	12
5) 須走浅間神社	13
6) 蕎林	14
8) 蕎仙坊	16
9) 須山浅間神社	17
10) 村山浅間神社	18
11) 山宮浅間神社	19
12) 富士山本宮浅間大社(駿河國一之宮)	21
13) 富知神社	23
14) 音止の滝	24
15) 白糸の滝	24
16) 富士ミルクランド	24
17) 北口本宮富士浅間神社	25

1. 基本的な知識

富士山のような独立峰の場合、その周辺は時計回りのエネルギーの流れがあります。
このエネルギーの流れに沿ってワークを行います。



時間があれば、逆方向に走ってみると、まるで向かい風を受けているような感じになり、走りにくいのが分かります。

2. 浅間神社

基本的には、浅間神社を巡ることになります。これらの浅間神社は概ね富士山登山道の起点とも言うべき場所に建っています。

つまり、メジャーな登山道は、北口（富士吉田市）、東口（小山町須走）、南口（裾野市須山）、本宮（富士宮市）の4つあるということです。

これらは、歴史的にも多くの修行者が登山している場所になるので、エネルギーが高くなります。

富士山北西方向には有力な浅間神社はありません。これはかつて富士山が噴火して溶岩が流れ出た時に、北西方向には大量の溶岩が流れて人が住める状況になかったためです。

青木ヶ原樹海も大量の溶岩の名残り。

3. 浅間神社の神様

浅間神社の神としてコノハナサクヤヒメが祭られていることが多いですが、これは歴史的に見れば後付けになります。

富士山は、フヂオオカミという山そのものをご神体とする山岳系の神様が中心です。

修験（仏教や神道などの混合宗教）の時代になって、仏教系修行者が山頂に上って観音を感得した話が広がって、神社側としてもなんとか人気にあやかりたいということで、オオ

ヤマズミの娘のコノハナサクヤヒメを後付けで付け足したという経緯があります。

そのため、富士山本宮浅間神社では、浅間神社にお祀りしているのは「自然の神様である」という説明をします。

富士山ワーク解説



4. 御中道

富士山参拝というと、山頂奥宮に参拝するという人が多いのですが、それよりも厳しいとされ富士修験の行者が行っていたのが「御中道（おちゅうどう）」です。

富士山五合目あたりを鉢巻のように巻いている山道があり、御中道と呼ばれている。富士信仰の信者にとって「御中道巡り」は信仰の完成であり、山頂に三回以上登った人でなければ、ここを歩かせてもらえなかったと言われている。

御中道は、富士山にある 27 の沢を渡って行くのですが、沢によっては落石が多くまさに命がけの修行でした。

富士講の祖である長谷川角行（藤原角行）は生涯において富士登山 1 2 9 回、御中道 3 3 回を成し遂げたとの記録がある。

現在は昭和 5 2 年に起きた大沢崩れと、御殿場口六合目～須走口本六合の間の道が不明瞭な為、一周する事は出来なくなっており、スバルラインの富士山五合目から大沢崩れまでの道と佐藤小屋までの道が残るのみ。

富士山ワークは、この御中道を下道の国道を車で走ることで行う修行です。

5. それぞれの浅間神社での参拝

浅間神社では、コノハナサクヤヒメが祭られていることが多いですが、これは歴史的に見れば後付けになります。

富士山ワークでは、富士山そのものである、「フヂオオカミ」に拝礼します。

二礼二拍手の後、手を合わせたままで、富士山と自分が一体となるイメージをします。一体となったエネルギーを感じ取れたら、一礼して終了します。

6. スタート地点

歴史的にも、江戸の庶民が富士山詣でをするときは、甲州街道→大月→富士みち→富士吉田 と江戸から7日間かけて歩いてきて、富士吉田から登山していました。

なので、富士山ワークもこれにならい、富士吉田（北口本宮）を起点として、一巡します。

7. カーナビについて

初めての神社や道を通る時は、カーナビを使うことが多いですが、カーナビを使うと、自分が今どこを走ってどこに向かっているのかが分からないまま目的地についてしまいます。

富士山ワークは、人々が往来してきた国道と県道を走ることでエネルギーワークになるので、カーナビではなく、国道や県道の青い道路看板に従って走るようにしてください。

そうすることで、今自分がどこを走っているのか、どこに向かっているのかが分かり、エネルギーワークになります。

道に迷った場合のみカーナビを使い、国道・県道に戻ったら道路看板に従って走るようにしてください。

出来れば、富士山を中心に置いた紙一枚の大地図があると、走るルートや参拝するポイントが分かりやすくなります。

8. スポット紹介

それぞれの場所については、Google Maps の下記リンクを参照してください。

<https://www.google.com/maps/d/viewer?mid=1D-4n1PsAaYTx9fBUMaC6rTrSzGUjDHM&ll=35.33829334229561%2C138.80499596606447&z=11>

写真の引用元は写真下に記載してあります。記載がない写真は私が撮影したもの。

1) 金鳥居



<https://fujiyoshida.net/spot/24>

金鳥居（かなどりい）は、富士吉田の国道 139 号線に建つ青銅製の鳥居。

富士山信仰のシンボルでもあります。

江戸から街道を進んで、ここまで来ると富士山に来たという感慨が深くなります。

またこの先は富士山信仰を支える御師（おし）と呼ばれる人達の宿が連なります。

角のガキ大将ラーメンの営業時間が 11 時からなので、早い時間であればラーメン店の駐車場に車を停めることができます。駐車場からだちょうど鳥居と富士山が重なるポイントになります。

2) 北口本宮富士浅間神社 第一大鳥居



Google Maps

国道 138 号線に面する。向かって右手に 40m ほど進んだ所に駐車場があるので、そちらに車を停めます。

富士山ワークが初めての場合は、この大鳥居から一直線に伸びる参道を進みます。
というのも、この参道のずっと先の正面に富士山がそびえており、富士山のエネルギーを受け止めることが出来るからです。

参道途中に角行の立行石があります。（詳しくは看板参照）

富士山ワークに何度か来たことがある場合は、200m ほど先の駐車場に停めます。

3) 北口本宮富士浅間神社

起点となる浅間神社になります。これから富士山の周囲を一周して、またここに戻ってきます。



写真手前の橋に注意。これから回る浅間神社は富士山鎮火の願いもあり、（大塚丘と山宮を別として）かならず川があるので、注意して見てください。

富士山の雄大さに合わせるように、大きい鳥居が建ちます。旧鳥居の跡もあります。

楼門を入ると正面は神楽殿、その奥が拝殿になります。



左手に、手水舎があります。



手水舎の水は富士山からの天然水なので、とても綺麗で美味しいです。そのため水汲みする人が後を絶たず、列を作ってしまうので、水汲みは禁止になってしまいました。

拝殿も大きなサイズになります。内側に本殿が見られます。



参拝する前に、拝殿の奥にそびえる富士山のエネルギーを感じます。意識を合わせると雄大な富士山のエネルギーを感じられます。

参拝します。

拝殿の右側に登山道があり、小さな社があります。



こちらは、登山する人がこちらにも参拝してから登山する社です。
修験道の先達が祭られています。

4) 大塚丘

大塚丘（おつかやま）については、北口本宮富士浅間神社の神楽殿に説明がありますが、ほとんど見過ごされているようで、大塚丘まで来る人はとても少ないです。



私たちが丘の上に立っていると、地元の人も不思議そうに眺めていたりするぐらいです。

しかし、ここは富士山を体感できる丘なので、富士山ワークでは必ず来ます。

そもそも、北口本宮が立てられた元になった場所であり、ヤマトタケルがこの丘から遠望する富士山を遥拝した場所です。（現在は樹々が茂っていて見られません）

ちいさな丘ですが、この丘は富士山のコピーであり、その上に建つと富士山に登ったのと同じような効果があります。

まず、登る前に土地の感覚特に標高を感じておきます。

そして、丘に登ってしばらく佇んでそのエネルギーに馴染みます。参拝してから、下ります。すると、ほんの数メートル下っただけなのに、下った先が下界に感じられます。

この丘は富士山のエネルギーをそのまま持っているから、下った時に下界と感じられるということです。

おまけ：北口本宮浅間神社の近くに新屋山神社があります。以前スピリチュアル界では有名な経営コンサルタントの人が、ここを金運神社と言ったため、最近は金運神社として大変人気がありますが、この人はスピリチュアルを正しく理解できてないのは明らかで、実際に行ってみると金運の神社ではなく、山神の神社です。新屋山神社という社名は、新屋地区の山神社という意味です。

5) 須走浅間神社

北口本宮から、須走浅間神社へ普通にカーナビで走ると、新たにできたバイパス道路の方に誘導されますが、バイパスではなく、旧国道の方に行く必要があります。バイパスは富士吉田から御殿場方面の混雑緩和のために新たに作られた道路なので、エネルギー的にも弱く、景色も単調になってしまうため、富士山ワークをするのには不向きです。

北口本宮前の国道 413 号線を南下します。やがて山中湖湖畔を通り、国道 138 線交差点を右に曲がり御殿場方面に進みます。

簗坂峠を越えて、須走の方に出ます。



駐車場は、神社の後方（広い）と正面（狭い）の二か所あります。

こちらは富士山の東口登山道の起点となります。

鳥居の額に書かれているのが「不二山」となっていますが、そもそも日本語は音だけあって、文字がない時代が長く続きました。中国から文字が入って来た時に、音が同じであればどの字を充てても良いという時代が長く、そのため

ふじ = 富士（続日本紀）、不死（竹取物語）、福慈（常陸風土記）、布士・不尽・不自・不時・不二（万葉集）、普慈、富慈、富知などの当て字がいくつも存在していました。

6) 蕎林

昼食ポイントは、いつも蕎林（きょうりん）を使っています。

行くときは事前に電話で営業しているかどうか確認してから行ってください。

須走浅間神社から、旧国道の県道 418 号線を南下します。（バイパスに入らないように注意してください）県道 418 号線から左に入る場所は分かりにくいので、カーナビもしくはスマートフォンのナビソフトを使った方が良いです。

左に曲がってしばらくは舗装されてない一方通行の道を進みます。

帰りは別の一方通行の道で、県道 418 号線に戻ります。

店名 蕎林（きょうりん）

カテゴリ そば

電話 0550-88-2350

住所 静岡県御殿場市柴怒田 598-13

営業 11:00～そばがなくなり次第閉店

定休 木曜日

支払 現金のみ

7) 一面のススキ

蕎林を出て、県道 418 号線を南下し、「仁杉」交差点を右に曲がり、国道 469 号線を西に進みます。左手のお寺を過ぎた所に道路青看板「県道 418 号線御殿場市街」と「国道 469 号線 富士 十里木」があります。富士 十里木方面に進みます。

しばらく進むと、「原里小前」T 字路にぶつかるので、右に曲がります。
しばらくは、右に富士山が見え隠れする道を進みます。

国道 469 号線を進んでいくと、途中に一面のススキが広がる場所があります。



見ごろは 10 月初旬です。

おそらく日本で一番広いススキポイントです。一見の価値があります。

広いのは、ここは陸上自衛隊の東富士演習場だからです。

8) 蕎仙坊

蕎林が営業していない場合は、蕎仙坊（きょうざんぼう）を使います。

行くときは事前に電話で営業しているかどうか確認してから行ってください。

工業団地の奥にあるので、こちらもカーナビもしくはスマートフォンのナビソフトを使った方が良いでしょう。

店名 蕎仙坊（きょうざんぼう）

カテゴリ そば

電話 0559-98-0170

住所 静岡県裾野市須山 1737

営業 11:30-14:00

支払 現金のみ

HP <https://www.kyozanbo.com/>

9) 須山浅間神社

国道 469 号線を進んで、田向入口の交差点に、すごく小さい白い [須山浅間神社→] という誘導看板があり、そこから一本道になります。

神社手前の川沿いに駐車場があります。

鳥居の目の前が川になっています。かつてはこの川で禊をして登山したようです。



須山浅間神社は、南口登山道の起点になります。町内には所々に登山道を示す小さな看板が立っています。

階段左脇にハート形の穴が開いた石灯籠があります。ハート形は「猪目（いのめ）」と呼ばれる古くからある図柄で、魔除けとしての効力があると言われています。

10) 村山浅間神社

須山浅間神社から国道 469 号線に戻り西に進みます。国道に茶色の[村山浅間神社→]の看板があります。国道から少し入ったところに村山浅間神社があります。



村山浅間神社は元はお寺であり、仏教色の強い神社のため、富士山ワークではパスすることが多いです。

そのため、こちらの浅間神社はパスしても構いません。

1 1) 山宮浅間神社

富士吉田の北口本宮とは富士山頂上を挟んで反対側に位置する神社で、富士山本宮浅間神社の元宮でもあります。北口本宮の大塚丘とちょうど対の関係になります。

ちょうど、下記のような関係性になります。

北口本宮浅間神社 → (元宮) 大塚丘 → 富士山頂上 ← (元宮) 山宮浅間神社 ← 富士山本宮浅間神社

参道を進むと、賽銭箱の置いてある拝殿がありますが、



そこからさらに先に進みます。

階段を上ると石垣で囲われた場所（祭場）に出ます。以前は自由に出入りできたのですが、世界遺産になったあたりで、出入り禁止になりました。

祭場に外から手を伸ばしてみると、場が強いことを感じられます。

祭場は、場が強く建物を建てても倒壊してしまうため、建物がありません。

ここでは、神職が整列して祭事を行う時の目安として石が並べてあります。

祭場からは、天気が良いと富士山を遠望できます。



参道の真ん中にある丸い石は、触ってみるとエネルギーが高いことが分かります。
これは山宮から富士山霊を麓の富士山本宮浅間神社に降ろすお祀りの山宮御神幸の時に、
鉾を立てる石で、鉾立石と呼ばれます。
鉾立石は富士山本宮浅間神社の楼門前にもあります。

1 2) 富士山本宮浅間大社(駿河國一之宮)

富士山を遥拝する神社として一番の神社になります。
でも、富士山に直で向かっているわけではありません。



直に向かっている理由は良くわかりませんが、川や湧水との関係があるようです。
境内は広く、楼門もあります。



楼門の手前には、鉾立石があります。

湧水は広く、



霊水を汲める場所もありますが、



この場所よりも、神社正面の右側にある、小さな汲み上げる場所の水の方が、霊的にも良い水です。

1 3) 富知神社

とても小さな神社で、見た目にもこれと言った特徴がない神社ですが、富士山ワークでは一番人気のある神社です。



行くと、地元の人が広場を使っていたりして、普通に地元の神社なのですが、この神社の歴史を知ると、普通の神社ではないことが分かります。

第七代天皇孝霊天皇の二年（紀元前 288 年）に創建と伝えられ、延喜式には「富士郡 三座 倭文神社 浅間神社 富知神社」と記されている。

富士山そのものを祀る神社であり、不二神社、福知神社、福地明神社とも呼ばれる。

大同元年（806 年）に征夷大將軍坂上田村麻呂が浅間大神を山宮の地から現在の富士山本宮浅間大社の地に遷座する時に、その地にあった富知神社を現在の位置に移したと伝えられている。富知神社が富士山・富士大神を祀る根本の神社であると言える。

御祭神は大山祇命とされていますが、富士大神（ふぢおほかみ）を呼ぶとダイレクトに繋がるので、どうも後から記紀に合わせて御祭神が整理されてしまったように思えます。

見た目は普通の小さい神社に見えるし、参拝する人も少ないのですが、富士大神と繋がるとかなり強烈なエネルギーが降りてきます。

富士山本体のエネルギーに繋がるには、社殿の奥に富士山の霊体としての姿をイメージして、そこに繋がります。

富士山本体のエネルギーとダイレクトに繋がります。

慣れないと頭ぐらぐらするくらい強いです。

14) 音止の滝

15) 白糸の滝

二つの滝は、富士山を象徴する滝です。
時間があれば、訪れてみると良いです。

16) 富士ミルクランド

長旅になる富士山ワークですが、ここは休憩ポイントになります。
国道 139 号線を右折し、県道 71 号線に入り、2.4Km 走った左手になります。



時間帯が遅くなると、閉店になってしまうので、注意が必要です。
16:00 もしくは 17:00 季節/祝日/曜日によって異なります。

疲れた体を癒す、ジェラートがお勧めです。

この後、県道 71 号線を進み、人穴交差点を右折し、ひばりが丘交差点で国道 139 号線に戻り、北口本宮浅間神社に向かいます。

17) 北口本宮富士浅間神社

北口本宮富士浅間神社に戻って、



無事に一周できた感謝で拝礼して富士山ワークは終了になります。
お疲れさまでした。

(終了)